

大豆管理情報（第1号）

令和7年7月2日

農業技術課 広域普及指導センター

1 気象経過

（1）気温

5月下旬の平均気温は、17.8℃（対平年差-1.2℃）と平年に比べ低かった。

6月の平均気温は、23.4℃（同+2.0℃）と平年に比べかなり高かった。

（2）降水量

5月下旬の降水量は、40.5mm（対平年比112%）と平年並であった。

6月の降水量は、129.0mm（同75%）と平年並であった。

梅雨入りは、6月10日（前年6月22日、平年6月11日）と平年並であった。

（3）全天日射量

5月下旬の平均全天日射量は、16.8MJ/m²/日（対平年比88%）と平年に比べ少なかった。

6月の平均全天日射量は、18.2MJ/m²/日（同105%）と平年並であった。

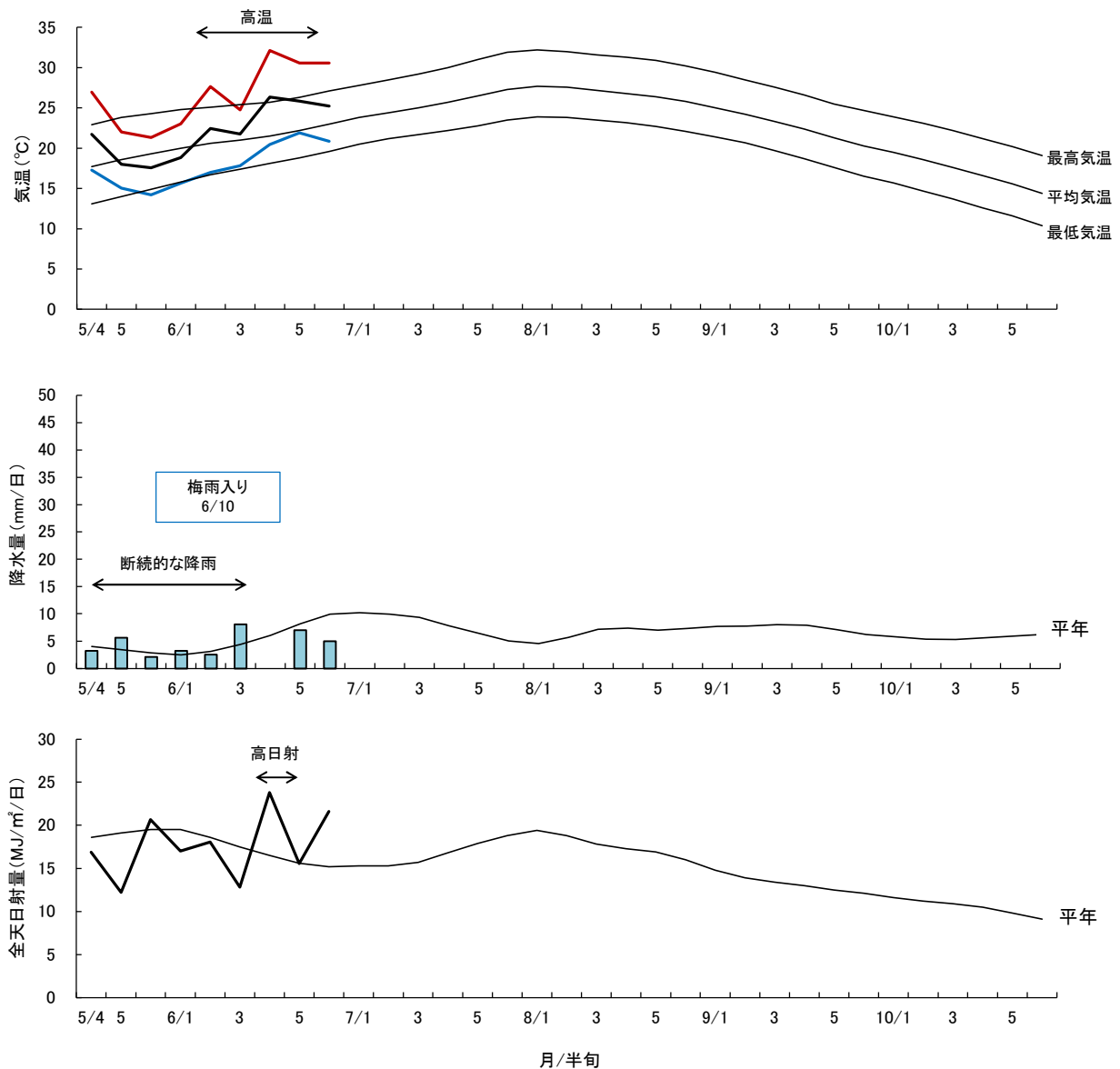


図1 令和7年の気象経過（富山地方気象台）

2 苗立・生育状況（生育観測ほデータ）

（1）エンレイ（単作）

- ・播種時期は、6月1日と近年に比べ1日早くなった。近年に比べ、苗立本数は16.7本/m²、苗立率は91.3%と並であった。
- ・近年に比べ、主茎長は25.8cmと長く、本葉葉数は5.3葉と1.1葉多く、一次分枝数は並となっている。

（2）エンレイ（麦あと）

- ・播種時期は、6月7日と近年に比べ2日遅くなった。近年に比べ、苗立本数は16.1本/m²、苗立率は91.1%と並であった。
- ・近年に比べ、主茎長は18.9cm、本葉葉数は3.5葉、一次分枝数は並となっている。

（3）シュウレイ

- ・播種時期は6月9日と平年に比べ3日遅くなった。平年に比べ、苗立本数は11.7本/m²とかなり少なく、苗立率は83.1%とやや低くなった。
- ・平年に比べ、主茎長は17.6cm、本葉葉数は2.5葉と並となっている。

表1 大豆生育観測ほ調査結果（7月2日調査）

品種	年次	播種日 (月日)	苗立調査		生育調査			
			苗立本数 (本/㎡)	苗立率 (%)	主茎長 (cm)	本葉葉数 (葉)	一次分枝数 (本)	
エンレイ	単作	R7	6月1日	16.7	91.3	25.8	5.3	0.0
		R6	6月5日	17.7	95.8	19.5	3.8	0.1
		近年	6月2日	16.6	92.7	21.9	4.2	0.1
		近年比・差	-1	100	98	117	1.1	-0.1
	麦あと	R7	6月7日	16.1	91.1	18.9	3.5	0.1
		R6	6月7日	16.4	93.0	17.0	3.1	0.2
		近年	6月5日	16.8	92.5	18.2	3.6	0.1
		近年比・差	2	96	98	104	-0.1	0.0
シュウレイ	R7	6月9日	11.7	83.1	17.6	2.5	0.0	
	R6	6月7日	11.7	90.2	16.8	2.6	0.0	
	平年	6月6日	14.9	88.7	17.1	2.4	0.0	
	平年比・差	3	79	94	102	0.2	0.0	

注1) 調査ほ場数: エンレイ(単作5、麦あと3)、シュウレイ(単作3)

注2) エンレイ: 近年値(R2~6)、シュウレイ: 平年値(H27~R6)

注3) 平年比(近年比): 苗立本数・苗立率・主茎長、平年差(近年差): 播種日・本葉葉数・一次分枝数

3 当面の技術対策

- ・ほ場内の水が停滞しないように排水対策を徹底する。
- ・培土は適期に確実に2回実施する。
- ・雑草が多い場合は有効な茎葉処理剤を遅れず適期に散布する。難防除雑草がみられるほ場では、雑草の種類に応じて体系防除を実施する。
- ・開花期頃から晴天が3日以上続くと見込まれる場合は、積極的に畦間かん水を実施する。

（1）排水溝の点検・手直し

- ・湿害の回避及び速やかな培土作業の実施、開花後の畦間かん水時の排水を滞りなく実施するために、ほ場内の水が停滞しないように排水対策を徹底する。

（2）確実な培土の実施

- ・培土は適期に2回実施し、株元まで確実に土寄せを行う。
 - 1回目の培土: 2~3葉期(播種20~25日後頃)に子葉が埋まる程度
 - 2回目の培土: 4~5葉期(播種30~35日後頃)に初生葉が埋まる程度
- ・出芽が不揃いなほ場では、生育の早い株に合わせて培土を行い、生育の遅い株が埋まらないように培土の高さを調節する。
- ・培土後は、培土でできた溝を額縁排水溝及び深く掘り下げた排水溝にしっかり連結し、ほ場内に水が停滞しないようにする。

(3) 的確な雑草防除

- ・ 2回の培土を確実に実施し、雑草の発生を抑える。
- ・ 大豆の生育が進むと株元の雑草への薬剤付着率が低下するため（図2）、茎葉処理剤の全面散布では、有効な茎葉処理剤を遅れず適期に散布する。
- ・ 難防除雑草（帰化雑草等）が発生するほ場では、草種に応じて防除効果の高い除草剤を選定し、体系防除を実施する（表2、図3）。
- ・ 畦畔、農道等、ほ場周辺で難防除雑草の発生がみられる場合では、開花・結実前に非選択性茎葉処理剤の散布や地際からの刈取り等の防除を行う。

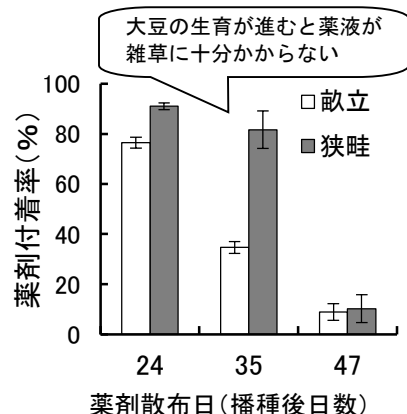


図2 播種様式及び薬剤散布時期が大豆バサグラン液剤の薬剤付着率に及ぼす影響（H28 農研）
注）播種：6/6、栽植密度 14 本/m²

表2 難防除雑草（帰化雑草等）に対する除草効果（目安）

草種	茎葉処理剤					
	選択性		非選択性			
	大豆バサグラン液剤 全面散布	アタックショット乳剤 全面散布	バスタ液剤 畦間処理 株間処理	ザクサ液剤 畦間処理	ラウンドアップ マックスロード 畦間処理	ロロックス 畦間処理 株間処理
帰化アサガオ類	▲（種間差あり）	▲（種間差あり）	○	○	▲	▲（種間差あり）
ヒユ類	▲（種間差あり）	○	○	○	○	○
イヌホオズキ類等	▲（種間差あり）	○	○	○	○	○

注1）○：効果が高い▲：効果が劣る

注2）登録内容（適用、使用方法等）を確認して使用する。

また、非選択性茎葉処理除草剤は、周りの作物にかからないように注意する。

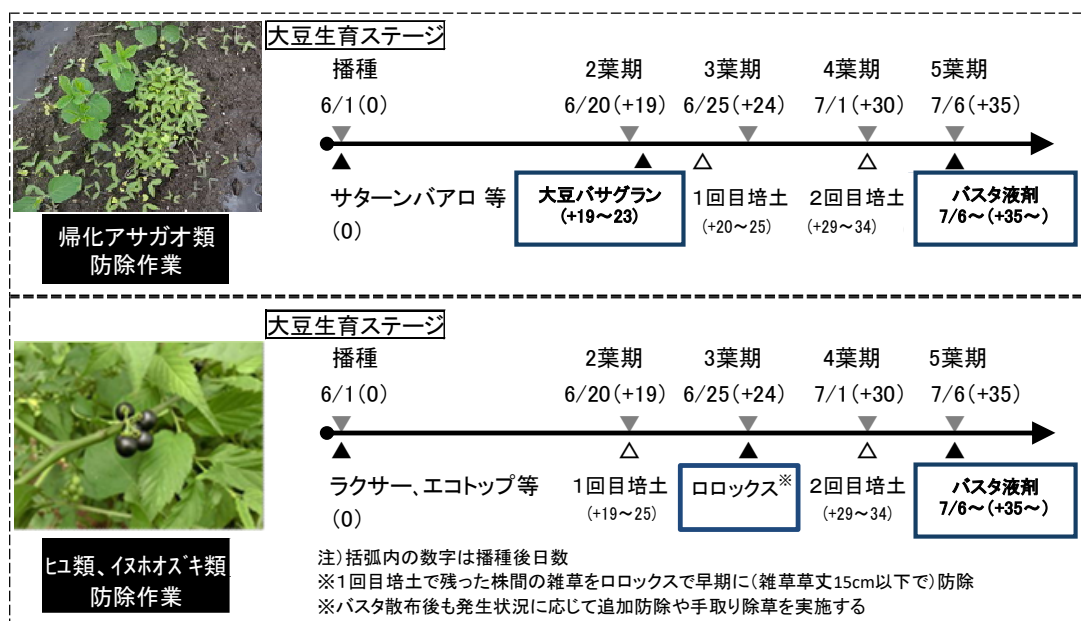


図3 難防除雑草（帰化雑草等）に対する防除と管理の目安

(4) 畦間かん水

- ・ 開花期頃から3日以上晴天が続くと見込まれる場合は、降雨に頼らず積極的に畦間かん水を行い、英数の確保を図る。
- ・ かん水は短時間で実施し、ほ場全体に水が行き渡ったら水口を閉めて速やかに排水する。

(5) 茎疫病の防除

- ・ 多湿条件で発生が多く、冠水は発生を助長する。
- ・ 発生が認められた場合は、直ちに株元にZボルドー粉剤DLやフェスティバルC水和剤等の薬剤が十分に付着するように散布する。